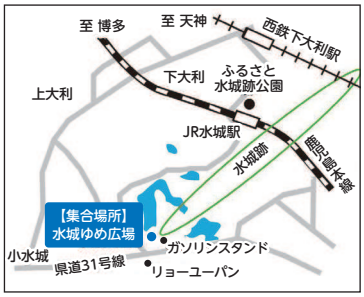
史跡めぐり　水城をあるく

水城跡は、築造から1350年を超える古代の防衛施設です。国の特別史跡に指定されており、市街地に残る貴重な緑地でもあります。ぐるっと水城跡をめぐり、はるかな昔に思いをはせてみませんか。

●**日時**　11月５日㈯　午後１時～４時半（集合　午後０時40分）

※雨天中止（当日午前７時前のNHK天気予報で降水確率60％を超えた場合）。分からない場合は、市コールセンター(☎(501)2211)に問い合わせてください。

●**集合と解散場所**　水城ゆめ広場〔下大利〕



集合場所地図

●**主な行程**　水城ゆめ広場→推定望楼跡・思水園跡→西門跡→ふるさと水城跡公園・土塁断面ひろば→瓦窯跡→東門→水城館→父子嶋→水城ゆめ広場

●**定員**　20人（申込多数の場合は抽選）

●**服装**　動きやすく汚れても良い服・靴

※飲み物は各自で持ってきてください。

●**申込方法**　◇申込フォーム◇はがき◇FAX◇心のふるさと館総合案内窓口（氏名・住所・電話番号・年齢）

申込フォーム

●**申込期間**　10月18日㈫～28日㈮

●**申し込みと問い合わせ先**

心のふるさと館文化財担当（平日　午前８時半～午後５時）〔〒816-0934　曙町３-８-３〕

☎(558)2206　FAX(558)2207

あけてみよう！

歴史のとびら 157

調査担当者が語る！大野城発掘物語

後世へ残すことの大切さ（雑餉隈遺跡第４次調査）

日田街道（現在の県道112号線）は江戸時代に整備された博多と日田を結ぶ主要な道で、当時は多くの人々の往来でにぎわっていたと考えられています。この日田街道沿いには、運河があったことを知っていますか。

江戸時代、年貢米などを現在の朝倉から福岡へ納めるために、人馬は大変な苦労と時間をかけて運んでいました。新しい運河を開いて舟で運送すれば、少ない人手で多くの荷物を運ぶことができるのではないか。こうして持ち上がったのが、二日市から博多を結ぶ運河開発計画です。寛延３（1750）年、ついに運河は完成しました。その名は「新川」です。

やっとのことで完成した新川ですが、十数年で運行が停止されてしまいます。運河の水量がとぼしく、船底もつかえて運航効率が悪かったためです。新川は一部を除き埋め戻されます。全て埋め戻さなかった理由は、今後同じような計画の議論が持ち上がることを防止する意味もあったようです。実際に1800年代に似たような運河計画が立てられましたが、実行されることはありませんでした。

この新川跡を発掘調査したのが令和３年のことでした。調査の結果、新川の幅は5・9m以上、深さは3m以上あることが判明しました。人が掘るには相当大変な作業だったことでしょう。曲げわっぱや染付のお皿、レンゲなどが数多く出土しました。

人々の負担を減らすために計画された運河でしたが、結果は残念なものでした。しかし、人々は後世へその結果を残し、現在は新川緑地として整備されています。良い結果であっても悪い結果であっても、後世へ残すことの大切さを学ぶことができる調査でした。

調査風景

●**問い合わせ先**

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206